

河川事業

再評価原案準備書(案)

網走川総合水系環境整備事業

<再評価>

事業名 (箇所名)	網走川総合水系環境整備事業						事業 主体	北海道開発局			
実施箇所	北海道網走市、大空町、美幌町、津別町										
該当基準	社会経済情勢の急激な変化、技術革新等により再評価の実施の必要が生じた事業										
事業諸元	<p>【網走湖水環境整備】 湖内負荷削減対策(塩境界層制御、水草刈り取り、底泥対策) 流域汚濁負荷削減対策(河道内直接処理、植生利用浄化) 【網走かわまちづくり】 (国)河川管理用道路(ボックスカルバート)、取付道路</p>										
事業期間	平成5年～令和10年										
総事業費 (億円)	約192			残事業費(億円)	約4						
目的・必要性	<p><解決すべき課題・背景> 【網走湖水環境整備】 ・網走湖は豊かな自然に恵まれた観光地として、地域住民の憩いの場、レクリエーションの場、また、ヤマトシジミ、ワカサギ等の内水面漁業の場として、地域にとってかけがえのない湖であるが、アオコの他、青潮が頻繁に発生し、多様な生物の生息環境などに影響を及ぼしている。 【網走かわまちづくり】 ・網走川沿いの河川管理用道路(散策路)は網走川を横架している橋の橋台で分断されていることから、動線の連続性の確保が課題となっている。 ・網走川沿いの一部区間では階段護岸が整備されているが、大きな段差があり、管理用道路等のバリアフリー化が必要となっている。</p> <p><達成すべき目標> 【網走湖水環境整備】 ・湖内負荷削減対策、流域汚濁負荷削減対策により、青潮発生の抑制、アオコ発生頻度の低減、湖内閉鎖性水域の水質改善を目指す。 【網走かわまちづくり】 ・河川管理用道路(ボックスカルバート)、取付道路、案内看板等の整備により、網走川沿いの上下流のアクセス確保、河川管理用道路のバリアフリー化、利用者の利便性の向上を目指す。</p> <p><政策体系上の位置付け> ・政策目標:良好な生活環境、自然環境の形成、バリアフリー社会の実現 ・施策目標:良好な水環境・水辺空間の形成・水と緑のネットワークの形成、適正な汚水処理の確保、下水道資源の循環を推進する。</p>										
便益の主な根拠	<p><水環境整備> 【網走湖水環境整備】CVMにて算出 支払い意思額:637円/世帯/月(住民)、受益世帯数:302,534世帯(住民 平成31年1月) 支払い意思額:364円/人/日(観光客:日帰り)、受益者数:1,530,696人日/年(観光客:日帰り、平成26年～平成30年平均) 支払い意思額:389円/人/日(観光客:宿泊)、受益者数:753,752人日/年(観光客:宿泊、平成26年～平成30年平均)</p> <p><水辺整備> 【網走かわまちづくり】CVMにて算出(平成28年度算出) 支払い意思額:382円/世帯/月(住民)、受益世帯数:107,196世帯 支払い意思額:216円/日(観光客:宿泊)、受益者数:616,921日/年(観光客:宿泊)</p>										
事業全体の投資効率性	基準年度		令和元年度								
	B:総便益(億円)	717	C:総費用(億円)	377	B/C	1.9	B-C	340	EIRR(%)	6.6	
残事業の投資効率	B:総便益(億円)	65	C:総費用(億円)	3	B/C	21.9					
感度分析	残事業費(+10%~-10%)		残事業(B/C)		全体事業(B/C)						
	20.0 ~ 24.4		20.0 ~ 24.4		1.9 ~ 1.9						
	残工期(+10%~-10%)		21.4 ~ 21.6		1.9 ~ 1.9						
	資産(-10%~-10%)		19.7 ~ 24.1		1.7 ~ 2.1						
事業の効果等	<p>【網走湖水環境整備】 ・湖内負荷削減対策、流域汚濁負荷削減対策により、青潮発生の抑制、アオコ発生頻度の低減、湖内閉鎖性水域の水質改善が期待される。</p> <p>【網走かわまちづくり】 ・河川管理用道路(ボックスカルバート)、取付道路、案内看板、街灯、ボックスカルバート内照明等の整備により、網走川河口から大曲湖畔園地に至る水辺の動線及び、安全な水辺へのアクセス、安全・安心な水辺利用環境が確保される。</p>										
社会経済情勢等の変化	<p><関連事業との整合> 【網走湖水環境整備】 ・網走湖の水環境改善を目指して、有識者、国、北海道、流域市町等からなる網走湖環境保全対策推進協議会を設置し、網走川水系網走川水環境改善緊急行動計画(清流ルネッサンスⅡ)を策定し、流域市町および関係機関と連携して網走湖の水環境の改善に取り組んでいる。 【網走かわまちづくり】 ・「網走市総合計画(2018～2027)」に基づき、交通アクセスの円滑化による観光客の利便性向上や多様な関係者との連携による新たな観光地づくり等を推進している。 ・「網走市都市計画マスタープラン」に基づき、網走川沿いのサイクリングロードについて、サイクリングやウォーキングをはじめとした日常的なレクリエーション空間としての積極的な活用を推進している。 ・「網走市観光振興計画 2019」において、網走の持つ豊かな地域資源や地域特性を活かした観光振興を目指し、網走かわまちづくりと連動した散策コースのPR等を推進している。</p> <p><河川等の利用状況> 【網走湖水環境整備】 ・網走湖周辺にはキャンプ場などの観光・レクリエーション施設があり、流域住民や観光客に利用されている。 ・網走湖近傍には女満別空港があり、毎年、道内外から多くの観光客が訪れている。平成30年度の年間観光客入込数は280万人となっている。 【網走かわまちづくり】 ・網走川の河川敷は散策やサイクリングなどに利用されるなど市民の憩いの場となっている。さらに、川沿いには、オホーツク・文化交流センター、モヨロ貝塚館、みなと観光交流センターなど観光集客施設が立地するとともに、「花火大会」「網走サマーイルミネーション」等のイベントが開催されるなど多くの市民や観光客が訪れる観光交流の場となっている。</p> <p><地域開発の状況> 【網走湖水環境整備】 ・流域市町人口は、約7.2万人(H27)で昭和60年頃から減少しているが、65歳以上の人口比率は著しく増加している。 ・網走国定公園は、オホーツク海に面し網走市を中心にしてその両側に広がっており、サロマ湖、網走湖、能取湖など大小7つの湖沼を有する面積約37千haの自然公園である。 ・網走川流域では主にヤマトシジミ、ワカサギ漁などの漁業が盛んで、これらの漁獲量は北海道内の約7～9割を占めている。 また、農業・畜産業が盛んで、近年、農業開発が進んでおり、牛の飼養頭数についても昭和40年以降、大きく増加している。 【網走かわまちづくり】 ・網走市の人口は、約3.9万人(H27)で減少傾向にあり、少子高齢化の影響で高齢化率は増加傾向にある。</p>										

	<p><地域の協力体制> 【網走湖水環境整備】 ・流域市町村を主体とした「オホーツク圏活性化期成会」から、環境整備事業の推進が要望されている。 ・観光協会、漁業団体等が主催する各種の河川清掃・湖岸清掃が継続して実施され、毎年多数の住民が参加している。 ・網走川周辺では、自然景観や歴史的資源をめぐり文化・産業・観光から網走の魅力や価値を再発見・再確認する「あばしり学」講座や川の環境学習が行われており、多数の市民が参加している。 【網走かわまちづくり】 ・網走市では、網走市、NPO、地元住民、網走開発建設部等で構成する意見交換会の場として「網走かわまちづくり検討会」を設置し、かわとまちが一体となった観光振興や親水空間創出の具体化を図る「網走かわまちづくり」計画を策定している。この計画は、「かわまちづくり支援制度」を活用した「網走かわまちづくり」として国土交通省に申請し平成28年3月28日に登録された。</p>
事業の進捗状況	<p>(令和元年度末) 【網走湖水環境整備】 平成29年度完了 【網走かわまちづくり】 ・事業進捗率: 約45% (総事業費約6.4億円に対し、約2.8億円が実施済み)</p>
事業の進捗の見込み	<p>【網走かわまちづくり】 令和10年度完了(予定) ・河川管理用道路(ボックスカルバート)、取付道路等</p>
コスト縮減や代替案立案等の可能性	<p><コスト縮減> 【網走かわまちづくり】 管理者と施工方法について調整を図るなど、コスト縮減に努めている。</p> <p><代替案立案の可能性> 【網走かわまちづくり】 ・網走かわまちづくりは、計画立案段階から、網走市役所、NPO、地元住民、網走開発建設部等で構成する「網走かわまちづくり検討会」で議論を重ねており、現計画が最適である。</p>
対応方針	継続
対応方針理由	・本事業の必要性・重要性に変化はなく、費用対効果等の投資効果も確保されているため、事業を継続する。
その他	<p><第三者委員会の意見・反映内容> (第三者委員会後、意見を反映) <都道府県の意見・反映内容> 網走市と連携した網走川の親水空間整備により賑わいを創出する取組などは、北海道のかわづくりビジョンの趣旨に沿っていることから、当該事業の継続について異議はありません。 なお、事業の実施にあたっては、徹底したコスト縮減を図るとともに、これまで以上に効率的・効果的な執行に努め、早期完成を図るようお願いいたします。</p>